

みんなで調べた 札幌市のセミ

市民参加型調査 札幌市セミ調査

主 催：札幌市
 企画・運営：札幌市博物館活動センター、
 札幌昆虫自然史研究会（神戸 崇、佐野 正和、古川 恒太）
 協 力：札幌市豊平川さけ科学館、西岡公園管理事務所、
 野幌森林公園自然ふれあい交流館、
 財団法人札幌市公園緑化協会、定山溪まちづくリセンター、
 札幌市立定山溪小学校、株式会社 GIS 北海道
 標 本 提 供：神戸 崇、野村 昭英、廣永 輝彦、
 北海道大学農学部昆虫体系学研究室
 写 真 提 供：神戸 崇
 同 定・分 析：札幌昆虫自然史研究会

市民参加型調査
 「札幌市セミ調査」
 第1次分布調査の結果
 (2008 - 2010年実施)

札幌市博物館活動センター

〒 060-0001
 札幌市中央区北 1 条西 9 丁目 リンケージプラザ 5 階
 電話：011-200-5002 FAX：011-200-5003
<http://www.city.sapporo.jp/museum/>



発行：札幌市
 発行年月：2012年10月
 編集：神戸 崇、佐野 正和
 写真・デザイン：神戸 崇

*裏面に掲載した地図（段彩陰影図）の作成に当たっては、国土
 地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しまし
 た（承認番号 平24情使、第269号）。
 *許可なく転載・複製することを禁止します。
 *再生紙を使用しています。



札幌市博物館活動センター

札幌市で見られるセミ

—成虫と抜け殻—

1 cm

●エツハルゼミ

Terpnosia nigricosta



●エツチツゼミ

Kosemia yezoensis



●アカエツゼミ

Lyristes flammatus



●エツゼミ

Lyristes japonicus



●コエツゼミ

Lyristes bihamatus



北方系と南方系の

10種が生息

●北方系 ●南方系

*ここでは、冷涼な地域に多い種を北方系、温暖な地域に多い種を南方系としました。

●アブラゼミ

Graptopsaltria nigrofuscata



●ニイニイゼミ

Platypleura kaempferi



●ミンミンゼミ

Hyalessa maculaticollis



●ヒゲラシ

Tanna japonensis



●ツクツクボウシ

Meimuna opalifera



市民参加型調査「札幌市セミ調査」について

手つかずの森から都市まで、様々な環境が広がる札幌市では、これまでに10種のセミの成虫や鳴き声が記録されています。しかし、すべての種類が市内で実際に発生しているのか、それぞれがどのような環境で発生しているのかはよくわかっていませんでした。

そこで、現在のセミの分布状況を調査し、記録として残すため、市民参加型調査「札幌市セミ調査」を企画し、2008年から2010年に市民の皆さんに身近な場所で調査を行っていただきました（第1次分布調査）。この調査では、その場所で発生した確実な証拠となるセミの抜け殻を採集し、位置と環境の情報とともに提出していただきました。このリーフレットでは、今回の調査で明らかになった各種のセミの分布と発生環境の特徴について紹介します。

この調査は今後も数年間隔で継続し、環境の変化によってセミの分布がどのように変化していくのかを見ていく予定です。

札幌市の成り立ちと生物の分布

現在の札幌は北国というイメージが強く、気候帯も亜寒帯に属します。しかし、札幌の位置する北緯43°は地球の中緯度にあたり、地球の寒冷化や温暖化の影響を受けやすい位置にあります。事実、これまで数千万年の間に北海道は亜熱帯から寒帯まで様々な気候を経験してきました。さらに現在の札幌市は、火山からなる西部の山地、支笏火砕流に覆われた南東部の台地、豊平川などの河川によって形成された扇状地、北東部に広がる低湿地に分けられ、低地帯から亜高山帯まで様々な環境に恵まれています。そして、江戸時代末期からは開拓がはじまり、平地を中心に都市が発展してきました。

このような環境の移り変わりとともに生物の分布も変動し、札幌周辺には北方系と南方系の生物が混生する多様な生物相が形成されてきました。現在のセミの分布もこうした過去の環境変動の影響を受けて成り立っており、これからも環境の変化によって移り変わっていくことでしょう。

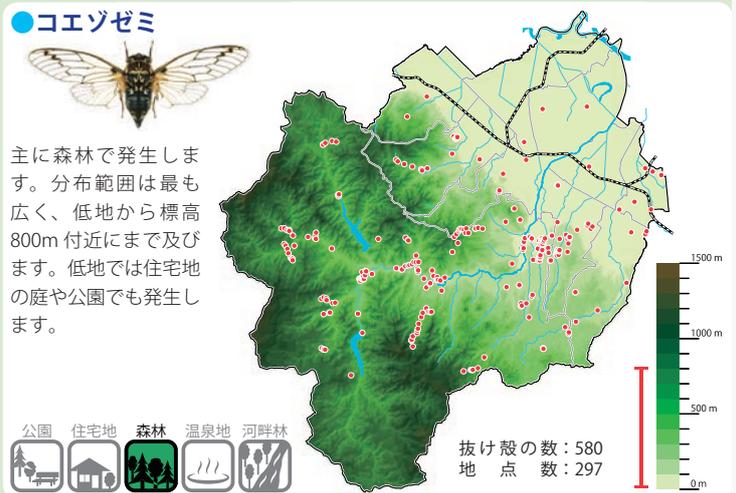
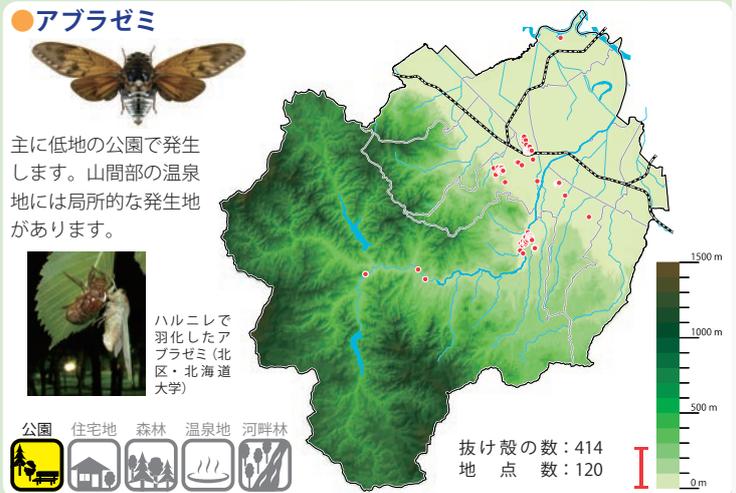


札幌市のセミの分布

第1次分布調査では7種のセミの抜け殻が見つかりました。分布のしかたはそれぞれのセミで異なり、環境とのつながりが見えてきました。

[調査参加者数(延べ)：199(個人・団体)、抜け殻の総数：1681]

*調査方法及び各年の詳しい調査結果については札幌市博物館活動センターのWebサイトをご覧ください。



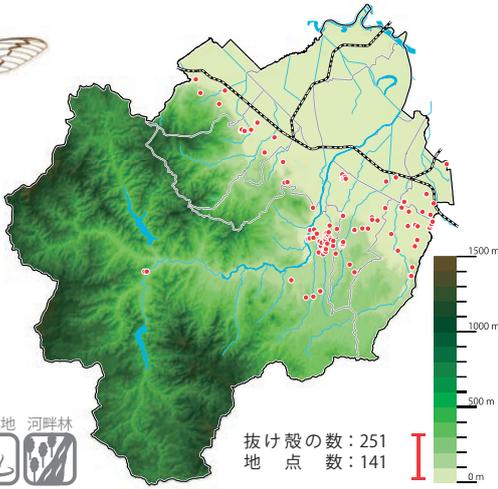
●エゾゼミ



低地の公園・住宅地から低山地の森林で発生します。発生地は扇状地や支筋火砕流堆積物の分布と重なり、特に札幌東部の低山地に多いです。定山溪には局所的な発生地があります。



抜け殻の数：251
地点数：141



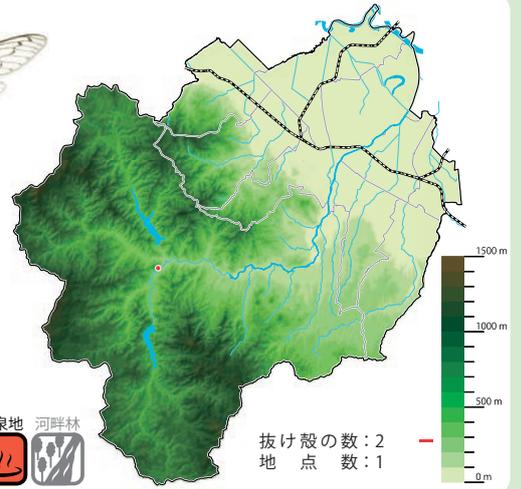
●ミンミンゼミ



定山溪温泉で抜け殻が見つかり、市内の発生地が確認できました。温泉地の地熱と関係があるかもしれません。定山溪の他の場所でも複数の鳴き声が聞かれたため、そこでも発生している可能性があります。



抜け殻の数：2
地点数：1



●アカエゾゼミ

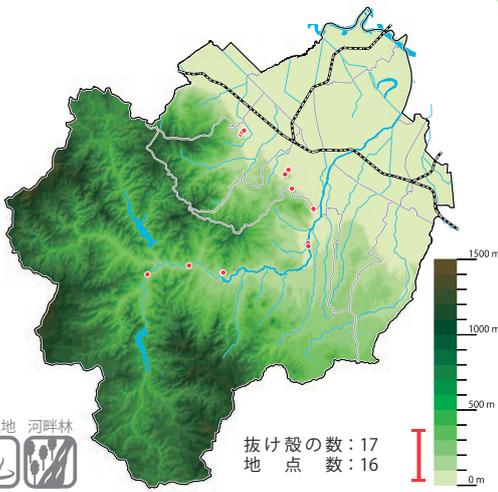


発生地は少なく、主に低山地の広葉樹林で発生します。札幌東部の低山地からは見つかっていません。

アカエゾゼミの抜け殻(南区・八剱山)



抜け殻の数：17
地点数：16



●ツクツクボウシ



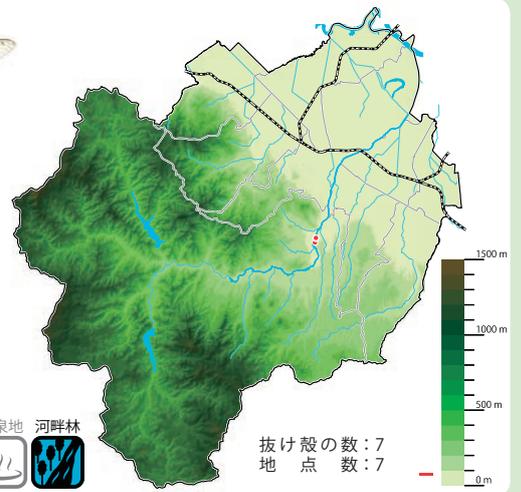
真駒内公園の周辺でのみ鳴き声を確認されました。真駒内公園近くの豊平川の河畔林で発生しています。



ツクツクボウシが発生する河畔林(南区・真駒内)



抜け殻の数：7
地点数：7



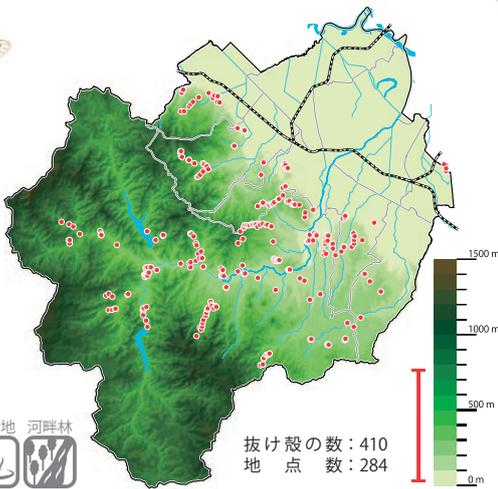
●エゾハルゼミ



主に低山地から標高800m以下の山地の森林で発生します。市街地でも鳴き声を確認されましたが、抜け殻は見つかりません。針葉樹人工林では大発生することがあります。



抜け殻の数：410
地点数：284



ミンミンゼミの抜け殻
(南区・定山溪温泉)



ツクツクボウシの羽化
(南区・真駒内)

WANTED! まだ抜け殻が見つからないセミ

今回の調査で以下の3種はいずれも鳴き声だけが確認されました。今後の調査で抜け殻が見つかる可能性があります。

●ニイニイゼミ

北海道神宮と北海道大学で鳴き声を確認。

●ヒグラシ

北海道神宮と円山公園で鳴き声を確認。

●エゾチツゼミ

山地の複数地点(主に崖地)で鳴き声を確認。